

■施設の現状と課題に対する対処方法の検討（今後の検討ポイント）

□ホール棟

No.	項目	主な現状と課題	対処方法の例
1	楽屋エリア	楽屋（出演者用）のトイレが舞台裏にあるため、本番中に音が聞こえてしまう懸念から実際には使用されていない。（構造的に和式便所の改善ができない）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール後方の観客用トイレ又は会議室棟のトイレを利用する。（観客との別動線は確保されていない。） ・舞台裏からの利便性が高い場所に新たなトイレを設置する。
2		楽屋の数や広さが不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室棟の会議室や和室を利用する。（観客との別動線は確保されていない。） ・舞台裏からの利便性が高い場所に新たに控室にも使用できる部屋を設置する。
3		楽屋には防音機能がなく、さらに音出しができるリハーサル室や練習室もない。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室棟の会議室や和室を利用する。（観客との別動線は確保されていない。） ・舞台裏との利便性の高い場所に新たに楽屋等を設けるとともに、防音性の高いリハーサル室等を設ける。
4	舞台エリア	ピアノ2台が舞台下手に直置きとなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台裏の改修により楽器庫等を設ける。
5		照明・音響操作卓を一人の技術者にて操作している（舞台上手）。	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台装置、音響機材等の更新
6	客席エリア	客席椅子の自動跳ね上げ機能が無く、必要な客席の間隔（避難経路としての前後の間隔）が確保されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・客席の改修（座席幅や通路幅を変更することにより、座席は16～64席減する）。
7		客席の椅子が古く、幅が狭い。（現状は45.6cm、標準的には48.0～55.0cm）	
8		座席背もたれの傾斜が、舞台を見下ろすことを考慮すると大きい。（現状は20度、標準的には13～15度）	
9		車いす席がギャラリー最後部の配置のみであり、望ましい転回スペースも確保できていない。	

No.	項目	主な現状と課題	対処方法の例
10	技術諸室	映写室は照明の操作室として利用することもある。	
11		照明室は、ピンスポット室兼シーリング室として利用されている。	
12	天井	遮音性や設備スペースが確保しにくいなどの課題がある。	
13	建具	北面・南面に大きく開口部が設けられており、建具の防音性能も低いため、音響が近隣に漏れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の使用制限 ・建具改修
14	搬入	地上（1階）から舞台（地下1階）への搬入は、階段及び一部スロープのため、人力作業である。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を確保したうえで、昇降機等の設置
15	駐車場	ゴミ保管庫が駐車場に設置されている。	

★今後の検討ポイント

- ・楽屋エリアと舞台エリアの明確化（No. 1、No. 3 への対応）
- ・出演者用の裏動線の確保検討
- ・楽屋数の拡充の検討
- ・搬入口の高低差の解消方法の検討
- ・技術諸室の必要な機能の検討

□会議室棟

No.	項目	主な現状と課題	対処方法の例
1	トイレ	踊り場（中間階）に設置されているため、バリアフリーが確保されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 各階の会議室等の一部スペースをトイレへ改修 ロビー脇（1階）のトイレスペースを拡充する。
2	ロビー	ロビーがほとんどなく（ホールに付随しており）、会議室棟利用者や施設利用者以外が過ごせる場所がない。	<ul style="list-style-type: none"> ピロティ部の改修 会議室の一部をロビーとしてオープンスペースに改修 ※ホール前のホワイエは、必要面積があり、現状より規模縮小は不可
3	和室	利用率は50%前後にとどまっている。短歌・俳句、茶道等での利用は、4.8%（平成30年度）と非常に低く、会議利用が63.7%とほとんどである。	<ul style="list-style-type: none"> 会議室や控室との兼用の検討。 和室の必要数の検討。
4	会議室	遮音が十分に確保できない状況であり、他の部屋や廊下の音が響く状況（第1・第2は合同利用の場合のみマイク使用可）。	<ul style="list-style-type: none"> 遮音性を高める改修 楽屋やリハーサル室との兼用の検討。
5	設備機器	設備機器の多くが耐用年数を大幅に超えているが、地下機械室にあるため、機器搬出入のための動線がない。	<ul style="list-style-type: none"> 1階床に開口を設けたうえで、機器更新を行う。 別のスペースに機械室を設ける。
6	安全性	帰宅困難者用一時滞在施設として、Is値0.75以上を確保するためには、耐震補強が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 耐震補強工事
7	エレベーター	会議室、和室は2階・3階に位置しているが、エレベーターが設置されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 既存の会議室棟内にエレベーターを設置する。（大幅なレイアウト変更が生じる） 増築によってエレベーターを設置する。
8	既存不適格への対応	エレベーター等を増築した場合、非常用進入口等の設置など現行適及による工事が大規模となり、工事費用が高額となる。	<ul style="list-style-type: none"> 現行適及が生じない範囲での改修の検討。

★今後の検討ポイント

- ・会議室の部屋数や面積
- ・各諸室の機能の集約や共有について

□その他、共用部

No.	項目	主な現状と課題	対処方針の例
1	旧 レストラン	平成 23 年度以降、レストランとしての機能なし。現在は防災備蓄倉庫として利用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄倉庫として必要な面積の検討。 ・
2	建物の配置	道路に面した西側に 3 階建てボリュームの会議室棟があり、視覚的にも圧迫感がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁改修によるファサードの改変 ・既存建物の一部除却等
3		歩道からフロアレベルが上がっており、空間の確保が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建物の一部除却
4	緑化	敷地内緑化面積の大幅な不足（増築の場合に現行遡及が必要となる）	<ul style="list-style-type: none"> ・現行遡及が生じない範囲での改修の検討。 ・敷地内の緑化（現在の 20 m²から 380 m²程度）

★今後の議論ポイント

- ・備蓄倉庫機能の必要面積の検討